

平成27年度特別展示

「うんち・糞・フン ～ダンゴムシからゾウまで～」 予告

奥村 みほ子

突然ですが、今年の夏の特別展示は、糞の展示をします！

皆様は、何種類の糞を見たことがありますか？ヒトである我々の糞、お家で飼っているイヌやネコの糞、夏に飼っていたアゲハチョウやカブトムシの幼虫の糞。さまざまな糞を見かけることがあると思います。

糞多数

今回の展示では、より多くの動物の糞を見ていただこうと、糞集めにフン闘しております。これまで、自分でも集めてきたコレクションや県内の動物園である、東武動物公園様と埼玉県こども動物自然公園様からたくさんの糞を提供していただきました。他にも野外に調査をしに行く研究者や、学芸員仲間、友の会やボランティアの方々、当館職員にも協力していただき、コツコツと集めてきました。こうして集めた糞達を展示室でも腐ることなく展示出来るように、ただ今、加工中です。

太古の恐竜や陸ガメも糞を残しています。これらは、化石になっていますが、形はそれらしい形をしています。これらも展示予定です。

動物の生息情報として、糞を知るべし！

野外での動物の生態を研究する上で、動物の糞は重要な生息情報です。糞が落ちているということは、その場に動物が来た証拠なので、糞を見分けることができると、より多くの生息情報を得ることができるのです。また、山へよく出かける方もツキノワグマなどの糞を見たら、縄張りに入ったことが分かりますので、やはり、糞は知っておいていただきたいと思います。ムササビの糞はコロコロした糞で、一度に約30粒も出します。



ムササビの糞

研究にも用いられる糞

糞は種の同定ができる場合、中身を調べれば、何を食べているのかを知ることができます。その為、タヌキやツキノワグマ、シカ、コウモリ等、糞からその食性を調べる研究が行われてきました。昔のヒトが残した遺跡からもトイレが発見されていて、その中から、何を食べていたのか、さらには、どんな寄生虫に寄生されていたのかをも知ることができます。当時の生活状況を知る手がかりになるのです。糞は、情報が満載なのですね。

糞は人気者？

当館で行う、ミュージアムトークで野外で見られる糞を紹介する時、「うんち」という単語を発するだけで、来館者の方々には遠巻きながら、参加してくれます。特にお子様はくいつきがよく、糞への興味は強いようです。糞にはたくさんの情報が詰まっていますし、興味が湧くのは、本能的なところからくるのかもしれないね。

糞に関するエピソード

糞に関するエピソードはそれぞれの方にあると思います。お腹を壊した時に苦労した、道で踏んでしまった、動物園に行ったら、ヤギやヒツジが目の前で用を足すところに遭遇した、「ウサギがお尻をなめている」と思ったら、糞を食べていた！などなど色々あると思います。そんな思い出も一緒に展示を見に来ていただけたら幸いです。なぜなら、糞の形や大きさは、種類に依ってもさまざまで、更に食べ物が変わると形態は変化します。御自分の経験と一緒に糞をした動物達の「その時」の気持ちを想像してみたいと思います。少しでも共感出来る部分があると、その動物を身近に感じることができるはずですよ。

(おくむら みほこ・学芸員)